



「和解の務め」音信

Ministry of Reconciliation in South Africa

(22-3)

Dec. 2022

金煥・朴貞玉

「神は、キリストによって私たちをご自分と和解させ、また、和解の務めを私たちに与えてくださいました」(Ⅱコリント 5:18)

主イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の交わりが、宣教同労者の皆さまにありますように。今年3回目の音信を送ります。ご参照の上、お祈りして下さい。幸いです。

1. 日本への一時帰国

7月12日、ビザ更新と家内のパーキンソン病継続治療のためにヨハネスバークのタンボ国際空港を発し、13日午後、東京羽田国際空港に着きました。翌日から直ちに入国管理局、南アフリカ共和国領事館、警視庁、病院などを訪ねながらビザ更新のための書類準備に取り掛かりました。3年前と比べて色々な面で変化がありました。先ず、大部分の事務所を訪問する時、コロナ対策で予約が必要であり、ネット予約しようとすれば2週間ほど待たされるのが普通でした。以前は文書の私訳が認められましたが、すべて翻訳会社の公認翻訳を要求されました。

それで9月初旬に予定していた南アフリカへの復帰がはるかに遅れてしまいました。幸い、無事にビザが下り、11月9日には南アフリカに戻ることができました。家内の病気はそれ以上悪化せず、治療不可能とされていたパーキンソン病も治療可能という喜ばしいニュースにも接することができました。

2. 家族と再会する喜び

子供たちは日本の生活に一生懸命馴染んでおりました。娘サラはかなり成長している孫たちの世話に余念がないところででした。孫ジョシユアは小学校3年生となり、



部活としてサッカーを選んで活動量が凄く増えておりました。孫娘、愛は今年幼稚園に入り、バレエを始めた。みんなデビュツフェ式のレストランに行きましたが、大人のよう

に食べている孫たちを見てびっくりしました。婿と息子もそれぞれ自分たちの立場で忙しく働いておりました。晩秋のある日、婿の両親と逢い、活発に遊んでいる共通の孫たちと一緒に見る喜びを味わいました。

3. 早天祈禱会

日本に帰国すると必ず味わう、もう一つの喜びがあります。足立愛の教会の早天祈禱会に出席することです。毎朝5時半から始まる早天祈禱会に平均10人ほどの信徒が参加します。担任の曹先生の創世記連続講解説教に皆が深く恵まれています。問題だらけの私たちの背後で、黙々と救済的ご計画を成就して行かれる神の恩寵の摂理。

同じ神が私たちの中でも働いておられるとは如何に大きな恵みでしょうか。

4. 公式宣教教師職からの引退

1993年、パウロ宣教会から宣教教師として派遣されてから29年が過ぎました。23年は日本で、6年は日本同盟基督教団委託派遣宣教教師として南アフリカで働かせて頂きました。規定に従い、パウロ宣教会では今年末まで、教団では来年3月末まで働き、その後引退予定です。ところが宣教会と教団のご理解の下、私的な身分で、南アフリカで続けて働く道が開かれました。既に「和解の務め支援会」が組織されています。詳細は引退の時お伝えします。29年間守って下さり、祝福して下さい。全能の父なる神と主イエス・キリスト、助け主聖霊に感謝と栄光をお捧げいたします。そして支えてくださった同労者の皆さまに心より感謝いたします。